

NO.

作成

年

月

日

部

課

# '90 冬山合宿報告書

配布先


経路

作成部署 ↓ 報告部署

保管

写原  
年紙年

板倉 大矢 藤田(勝)

日本電装・電友会山岳部

承認

検討

作成

NO.

作成

年

月

日

部

課

# 90年冬山合宿を振り返り

昨年の年度計画検討時、中央アルプス3ヶ年計画も全山縦走を失敗という形で終え、どうするかという討論となり、リーダーとなったばかりの私は中央アルプスより冬山を始めたこともあり、すっきりと区切りをつけたかったこともあり、再度、中央アルプス全山縦走を決定した。

昨年、あらゆる面で失敗した私たちは、まずオ1に軽量化を掲げ真剣に取り組んだ、食料面では、主食の軽量でジフーズを取り入れ、副食にも工夫をこらし、例会でテストし本番に望んだ。その成果で目標の25kg以下を大巾に減し、21.2kgとなり快適に進めたと思う。

ただ反省としては、空腹で困ったことはあったが、もう少し余裕があった方が良かったというのが皆の意見だった。今後の山行に役立てたい。

オ2は、ルートへの偵察だが、昨年のコースタイム、ルート上のポイントを参考に、私自身9月に一度、11日の偵察山行へは参加Xンで行き、偵察が十分にでき、先のルートがじんじん読める程でした。

幸い、越前山～極楽平の間は天候に恵まれ迷う時間はなかったが、視界が無くとも、ある程度スムーズに進む自信はありました。

オ3に体力的には、日常から走りこんでいる人でもあり、ほとんどばてることなく順調に進め、今後、と厳しい山行を向える為、更に体力強加に努めたいと思います。

今回の合宿中を振り返ると、初日はウェセルに終始苦しめられ、日没まで行動してしまい、結果的には二日目以降の行動が楽になり、最終的には合宿を無事成功できた要因でもあったが、万一の事を考えると反省すべき点でもあった。

とくに、冬期ルートということでは、南駒ヶ岳の下り、空木岳の下りと稜線上が行けた事を知らず、危険性の有るクラスト斜面の夏道を通ったことがあり、今後の冬山偵察の時にはそのような判断のできる目でルート

配布先

経路

作成部署・報告部署

保管  
写原紙  
年 年

承認

検討

作成

板倉

〒 \_\_\_\_\_  
 ↑  
 〒 \_\_\_\_\_

NO.			
作成	年	月	日
	部		課

配布先	

を復讐できるようにしたい思います。  
 判断的には、天候、コース、体力等の条件を十分に考慮に入れ、各場面で、良い判断が出来たと思います。  
 最後に、留守部員の方々、多くの差し入れを頂いた方々にこの場を借りお礼を申し上げます。

経路

作成部署 → 報告部署

保管  
 写 原紙  
 年 年

承認
検討
作成 板倉

# 12/28 行動記録

NO.
作成 91年 1月 2日
部 課

配布先

- 5:30 起床 (JR 須原駅)
- 6:48 林道出発 積雪 20~30cm。ゲートの所まで車で入可。
- 7:51 ~ 8:01 林道途中で一本
- 8:27 ~ 8:37 スパッツ着
- 9:57 ~ 10:14 下ノコル
- 11:25 ~ 11:40 1900m 地点
- ◎ 12:45 ~ 12:55 一本、ラッセル膝上。所により腰まで。ここから空身ラッセル
- 13:30 上ノ水場
- 15:30 横巻 (途中天気回復とる)
- 17:10 越百避難小屋

前夜、Bパーティーと一諸に90年最後のビールを飲んで須原駅を後にして、車で伊奈川ダムへ向う。林道で既に20~30cm新雪が積っており、ゲートの遙か手前でトレースがなくなり車を降りて、亀と伊藤と別れる。林道からラッセルは初めての経験だ。3人だけのラッセルは回転が早く、すぐに順番が回ってくるのでつらい。特に藤田さんの大まけラッセルの後ろは、内またの筋肉を酷使用するが非常に疲れる。12:55以降は雪が深くなり、空身でラッセルをする。3人ともトレーニング中毒にかかっている為、時間を決めて交替することにしても、ついついラッセルにのめり込んで時間をオーバーしてしまう。上ノ水場のすぐ上にテッ場があり、どうするか相談するが結局小屋まで行くことにする。横巻のトラバースの辺りは吹溜っていて、更にラッセルに苦しみ、小屋に着いたらもう薄暗くなっていた。

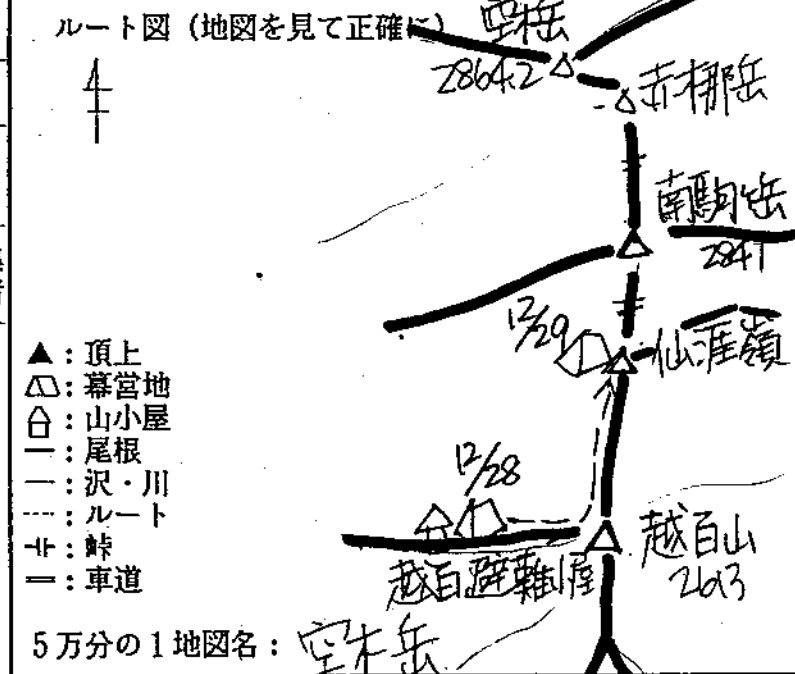
経路 作成部署↓報告部署  
保管 原紙 年 年

承認
検討
作成 大 夫

月 度 例 会 個 人	山行	集 会 報 告 書	報 告 者 報 告 日	板 倉 1/16	参 加 メ ン ー	CL: 板倉 大矢 藤田(晴)
山 域 山 名	中央アルプス 越白山~仙涯嶺	山行日	90年(2月29日)出~ 年 月 日( )			

山行目的: 冬山合宿  
コースタイム (天候: 天気図記号)

配布先  
集会: 8  
山行: 1  
リーダー  
原紙: 集会  
担当者

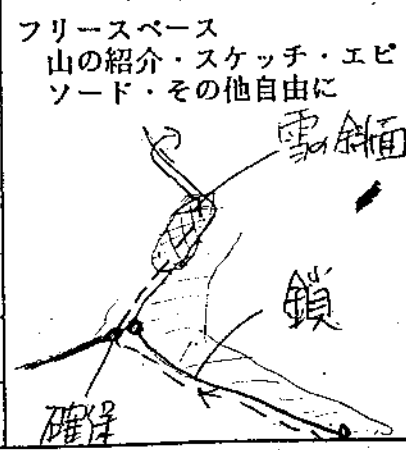


◎ 時々 ①  
5:00 起床  
7:10 越百避難小屋 登  
(7カン) 空身によるセル  
10:25 越白山  
11:40 仙涯嶺前 2500付近  
12:50 仙涯嶺  
~ 下設営  
~ 2:15 仙涯嶺トビ  
ス観察

<報告者所見> 昨日の行動時間が長かった為、今日は仙涯嶺のピークまでを予定し  
出発する。予想どおり、セルは空身で寝袋で替り、昨日に続き交替を早  
し、ルートを進める越白山まで、夏道の3倍強の時間がかかっていた。しかし、こ  
れでも各自行動食を持ち、交替時に補給するという方法を取った為、効率良く  
進めたと思う。

越白山へ上ると夏道がバキバキしており、ワカンをはずし、快調に先へ進む。  
途中、三回東面を巻く所があるが、さすがに吹き溜りしていて苦勞させられる。  
仙涯嶺の最後の登りにかかる頃、空も青くなり、前方の仙涯嶺の岩が  
迫ってくる。巨岩群を巻きつつ登ると、ネット予定地の仙涯嶺のピーク出る。  
ピークは風で雪で飛び、バキバキを使うことができません。少し下へ下へ張る。

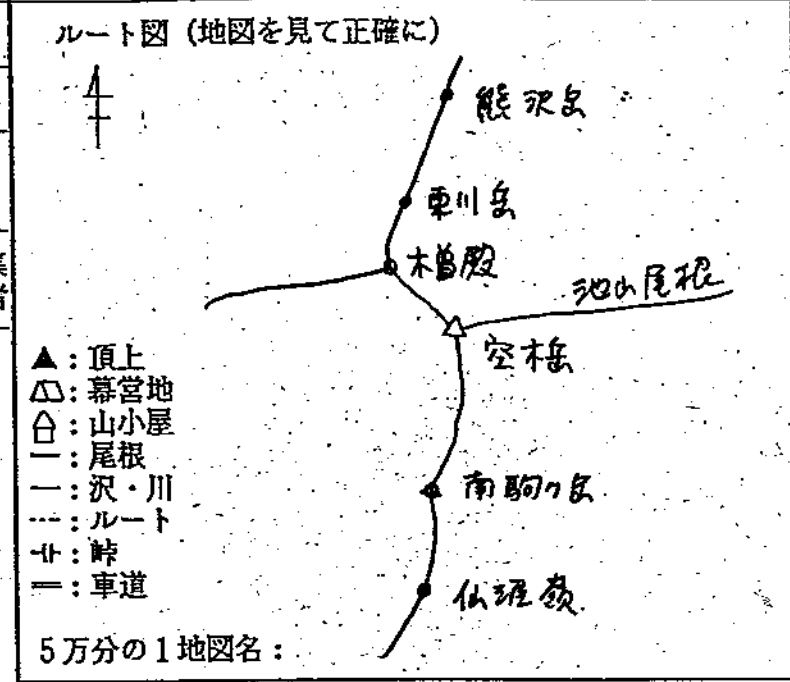
ネットを張り締ると明日、朝一番で通過するトランス  
を偵察に行き、トランスの折山曲りの所までは鎖を  
ピッケルで掘り出し進む。華越した所で確保にきん  
い岩から岩へ雪の斜面となっている部分をカッターで  
足場を作る。戻りに振り返ると高くそびえ立つ  
夏白岩が青い空をバックに美しく輝いていた。



月度例会 個人	山行	集会報告書	報告者 報告日	1/16	参加	CL: 板倉 大久 藤田
山域 山名		山行日	90年12月30日( )~ 年 月 日( )		メンバー	

山行目的 90年度冬山合宿 (3日目) コースタイム (天候: 天気図記号)

配布先  
集会: 8  
山行: 1  
リーダー  
原紙: 集会  
会担当者



4:30 起床 ① 14:40  
6:35 出発 熊沢岳手前の  
7:25 南駒トランス 岩かけに設営  
手前  
8:50 南駒トランス  
9:25 南駒頂上  
11:20 空木岳 ①  
12:25 木曾殿山荘  
13:30 東川岳と 熊沢岳の中間

<報告者所見> 予定より遅れることはあまり良い気分では無い。昨日は南駒嶺で設営  
予定が仙狸嶺までしか行けるかたからた。しかし一方、越前山荘のラッセルの深さ  
を考えるとよく頑張ってここまで来たものなという感もないでは無い。とにもかくにも  
遅れを取り戻そうという闘争心と今日通過する南駒手前のトランスの雪の状態  
は大丈夫かという不安が入り混った複雑な心境で3日目と向かえた。  
朝暗いうちから出発。昨日作ったトレス跡に仙狸嶺のトランスを通過してコル  
コルを過ぎたころから雪が深くなりラッセルが始まる。3人で何順目かラッセルを  
していうちに後続の6人パーティ(蔵前↔空木岳往復)が我々を追い抜いていっ  
た。我々のラッセルでやりたかった南駒ヶ岳のトランスも先にやられてしまった。  
南駒嶺で休んでいる6人パーティに先行して空木の登りは大矢をトップに  
~~サグ~~所見 快調なペースで登ることができた。 フリースペース  
山の紹介・スケッチ・エビ  
天候も申し分なく、遅々として進まなかった昨日、おとソード・その他自由に  
と比べ今日はどいどい先に進めるので気分が良い。  
木曾殿からはトレスがついていたので更に加速がついて  
本日の設営予定地(木曾殿)を熊沢まで伸ばすこ  
ができた。遅れをとり戻し貯金まで出来たので  
本合宿も目度がついた感もある1日であった。

# 12/31 行動記録

NO.

作成 91年 1月 2日

部 課

- 4:30 起床
- 6:35 出発
- 7:50~ 8:35 松尾避難小屋 デポ品回収
- 9:35~ 9:40 濁沢大峰午前
- 10:35~ 10:45 島田娘の午前 peak
- 11:30 極楽平 三ノ沢寄りのところにテントを張る。

前日の行動でグリコーゲンが涸渇し頭がフラフラになってしま  
が、一度使い切ったエネルギーはなかなか回復せず。今日も足が重い。  
熊沢から松尾避難小屋まで1ピッチで行く。心配されていたデポ  
品は無事であった。これで存分に食えると思うとホッとする。今日も  
快晴で、避難小屋から見る空木岳は迫力がある。濁沢大峰  
午前でまたガス欠になりかけた。しかし、島田娘の午前で取って置きの  
ようかんを食べたら、たちまち足が軽くなり、グリコーゲンの偉大さ  
を嫌という程味わった。極楽平は風が強く、テント場は三ノ沢  
寄りの風の弱い所に張った。三ノ沢は思ったより雪が深そうで、  
時間もかかりそうなので、翌日にピストンして、そのまま下山することに  
する。低気圧が二つ日本に近づいて来ており、進路次第で大荒  
れになる恐れもあり心配だ。ともあれ、前日に熊沢まで進んだお蔭  
で食料計画に余裕ができた。久しぶりに満腹感を味わうまで  
食べて、明日の行動に備える。

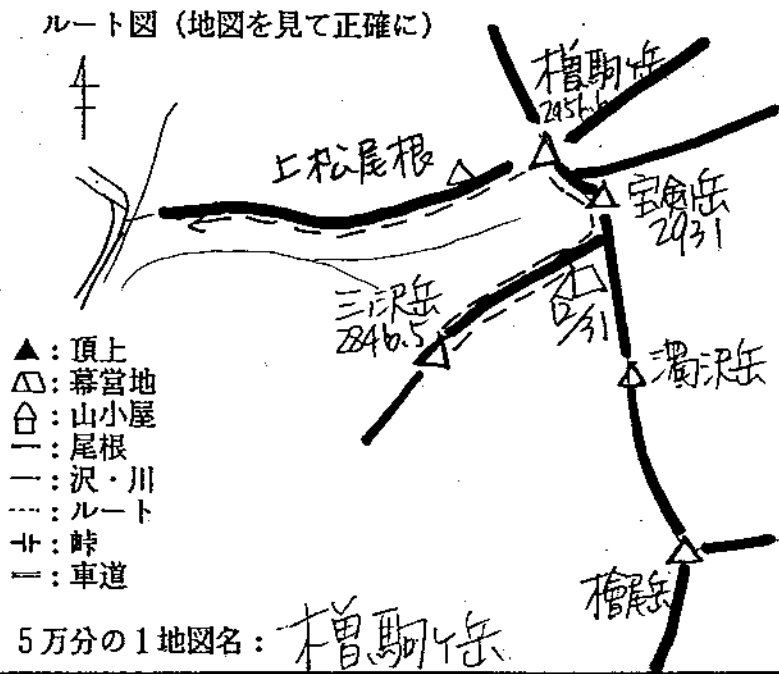
配布先	

経路  
作成部署  
報告部署  
保管  
原紙  
年

承認  
検討  
作成  
大天

月度例会 個人	山行集会報告書	報告者 報告日	板倉 1/16	参加 メンバー	CL: 板倉 大矢 藤田(勝)
山域名 山名	中央アルプス 三沢岳~榎駒	山行日	91年1月1日(火)~ 年月日( )		
山行目的	冬山合宿		コースタイム (天候: 天気図記号)		

配布先  
集会: 8  
山行: 1  
リーダー  
原紙: 集  
会担当者



5:00 起床 (+30)

6:40 榎駒平出発 空身でのアタック

9:40 三沢岳 カン歩行

11:05 ティー場着 11:35 〃 出発 ティー撤収

12:25 宝倉岳

13:50 玉窪山荘

15:00 七合目手前◎

16:05 金懸小屋

17:30 アルプス山荘

<報告者所見> 昨日の午後からの休息で体調の方は万全だが、低気圧の通過があるというので、今日の予定は、朝の天候と天気図にて判断することにし、夜10時の天気図をシミュレーションの中で書く。幸い、低気圧が日本海へ入らないことと冬型もそれほど強くないと判断し、三沢岳アタックを決意する。

出発は、日の出前の濃い霧の中で、視界が10m程の中を行く、初め左側のカルムへ入りたいが右方向へ進めと見えない岩端が見え出す為地図で確認し、30m程戻り最初のカルムに着く。ここからは膝から腰位のフッセルで進むが視界がない為地図で慎重に確認しながら進む。雪の状態は気温が高い為湿雪で雪崩に注意しながら細い稜を行き、三つのコルから急登を登ると広い三沢岳の斜面へ出る。最後は冬期ルートで稜線沿いにそのまま頂上へ出る。

<リーダー所見> 戻りはヒースを頼りに快調に歩き、行きは靴以下の時間で戻る。宝倉岳はカンをアゼンに換えアゼンのガゴジ注意してから頂上へ行く。下りは昨夜から降った湿雪が崩れを起して慎重に進む。榎駒岳を越えると上松尾根を快調に下り、敬神の小屋へ着く頃には雪はすでに暗くなり雪明かりを頼り、アルプス山荘へ着く。四年間の中央アルプス冬山合宿が終りを告げた。

フリースペース  
山の紹介・スケッチ・エピソード・その他自由に

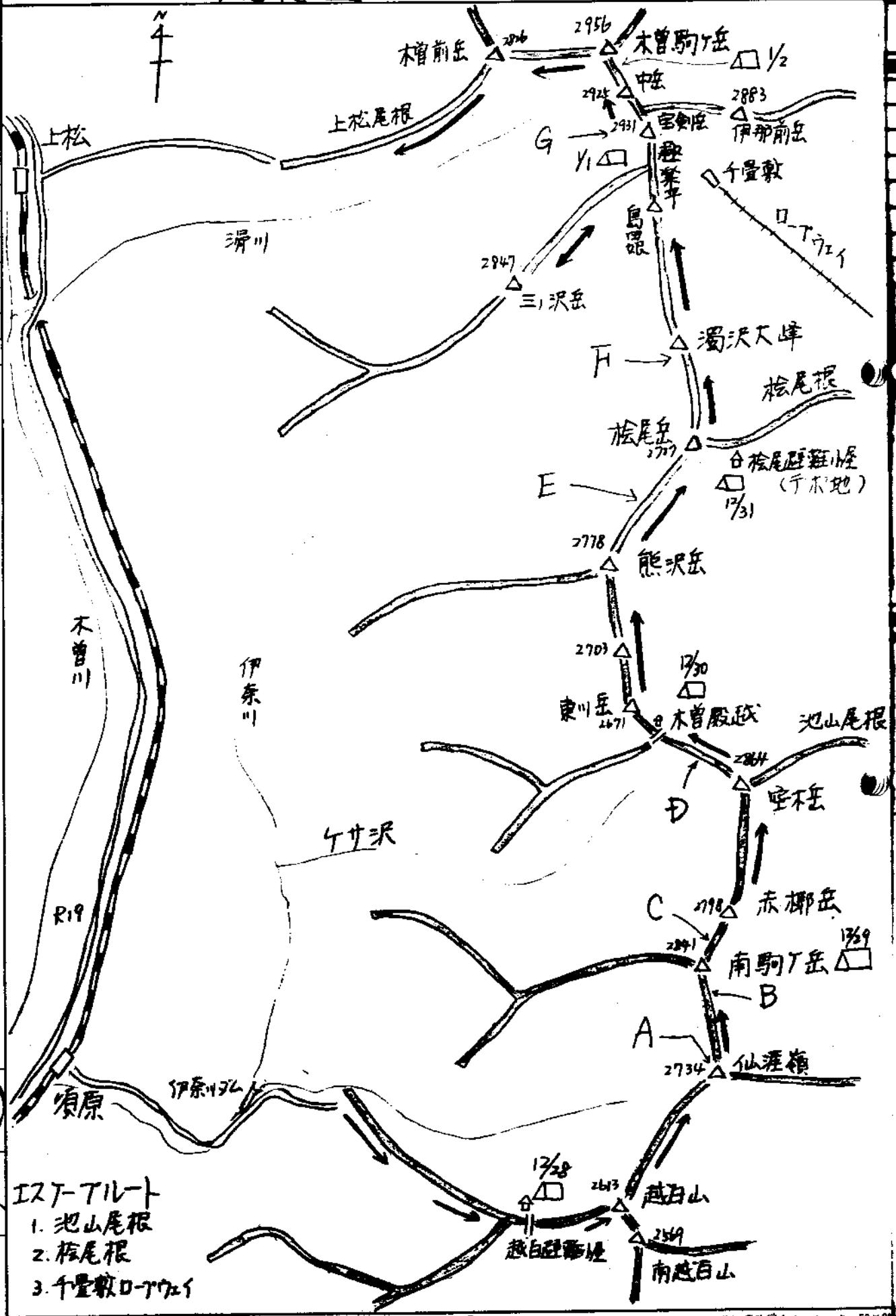


90年度冬山合宿

コース概念図

NO.	
作成	年 月 日
	部

配布先	



経路  
作成部署・報告部署

保管  
写原紙  
年 年

90.12.06  
本

検時 12/4  
板倉  
作成  
大矢

- コースルート
1. 池山尾根
  2. 松尾根
  3. 千畳敷ロープウェイ